慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	近世経済史上に於ける企業家の地位（一）（フッカー及ウェルザーに関する研究）
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.5 (1918. 5) ,p.539(1)- 546(8)
JaLC DOI	10.14991/001.19180500-0001
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19180500-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

又、七十五所帶の支出せし各費目の平均が幾何となるかを明かにせず、且つ自ら從前の家計費目に關する研究の結果との比較を試みて居らぬ。本書は斯くの如く種々の點に於て讀者をして隔靴搔痒の嘆を發するを禁ずること能はざらしむるものではあるが、細民の家計費の研究に資するを得る材料を提供せるものとしては、此種の調査に趣味を有する者に對する一個の寶庫たるを失はない。殊に、目下物價の暴騰は一般世人をして家計整理の必要を感ぜしめつゝある際であるが故に、組織的に生計費の輕減を計りつゝある紐育細民の經驗は以て吾人が他山の石と爲すに足ると思ふ。

三田學會雜誌　第十二卷第五號

論說

近世經濟史上に於ける企業家の地位（一）

（フッガー及ウェルザーに關する研究）

阿部秀助

一

獨逸のマンチェスターと稱せられ且、保護主義の泰斗たるフリドリッヒ・リストをして其傑著國民經濟學を產ましめし南獨アウグスブルグ(一)を過ぎし人は、誰人も之れが目拔の場所たるマキシミリアン街に於て今なほ尙ほ町人道の權威と、ありし昔の豪奢とを懷ばしむる三層樓の聳ゆるを見む、之れ實に一時、其富に於てフ

ロレンスのメヂチ家を凌駕し、其關係せる事業に於て當時に於ける企業家の典型と仰がれ、其努力に於て詩人の所謂(二)

Arbeit ist des Bürgers Zierde,
Segen ist der Mühe Preis;
Ehrt den König seine Wurde,
Ehret uns der Hande Fleiss.

を實現せしフッガー家にして彼れや單に十五、十六兩世紀に於する政治、經濟上に重要なる意義を止めしのみにあらずして。彼れによりて遺されたれる建築と裝飾とは藝術史上、殊に南獨に於ける文藝復興期の後期を代表するものとして藝術家の嘆美する處となり、又、現時アウグスブルグに於けるフッガー博物館にある千三百十七種の珍品は今ま尙ほ好事家の垂涎措く能はざる處なりとす、若、夫れ幾多ローマンスの種子を同市に蒔きしウェルザー家に至りては其企業組織に於て全然フッガー家と異なりしに不拘、然かも當時に於ける金權黨の旗頭として歐洲の各地に活動し、殊にヴェネスエラ探檢の事業に至りては、交通不便なる當時にありて一大壯擧と稱せざるを得ず。

（註一）　アウグスブルグは羅馬時代の Augusta Vindelicorum にして、其位置は市の北方に於て合一するレヒ及ウエルタハ兩溪流の間にありてバイエルン高原の一部を占め北海面より高きこと七百八十一メートル舊市の面積は二百十七ヘクターなるも、全市街を合する時は二千百八十七ヘクター、而して舊市街はAよりH迄八區に區分せらる、同市の人口は十萬、其中七萬は舊教徒、二萬八千は新教徒、其他、約千二百の猶太人あり、而して人口は之れを百年前に比する時は約四倍現時尙ほ增加の傾向を有す、氣候は之れをバイエルンの首都ミュンヘンに比すれば比較的溫暖にして、飲料水其他衞生事項の完備せる結果として之れが死亡率は最近四十年間に於て一千人に就き四十人より十九人に減少せり、尙ほ現時のアウグスブルグは獨逸有數の工業地たると共に一種の兵營市 Garnison-Stadt なりとす。

（註二）　A. Stanber, Das Haus Fugger. s. 2.

フッガー家の確實なる史料に見えしはアウグスブルグの租稅帳に於ける千三百六十七年の部に Fucker Advenit (三)とあるに始まる、然かもウェルザー、ヘルワルト、ラングゲンマンテルの如く土着の富豪にあらざる彼れが果して何れの地方より移住し來りしに就きては何等確實なる材料の之れを徵す可きものなきも、同家に傳はる家譜(四)によれば朧げながら其由來を知るを得可し、即ちアウグスブルグの近郊

レヒフエルトを去る北西二粁のグラベン村にハンス・フッガーなるもの農業を營む傍、機業及染業に從事せしが、其の一子にして同名のハンス・フッガーは千三百六十七年を以て草深き田舍を脱してアウグスブルグを以て飽迄自己が活動の新舞臺、新鄕土となし、玆に同市に於けるフッガー家の基礎を造るに至れり、而して彼れが地方より都會に轉せし動機如何に就きては勿論何等材料の求む可きものなきも論者は之れが一部の源因を當時に於けるアウグスブルグの社會狀態に歸せんとするものなり。

（註三）　Max Jansen, Die Anfänge der Fugger, s. 8. u. Jacob Strieder, Zur Genesis des modernen Kapitalismus. s. 71.

（註四）　フッガー家々譜はハンス・ヤコブ・フッガーの時代に作成せられしものと推定せらる、若此推定にして正當なりとせば、此書は約千五百六七十年代のものにしてハンス・フッガーがアウグスブルグに入りし際を去る約二百年後のものなりとす、此史料の批判に就きては Max Jansen, Die Anfänge der Fugger. s. 76, Beilage 2: Die Chronik des Fuggerischen Geschlechts 參照。

蓋當時に於けるアウグスブルグは一種の革命的暗流に襲はれしものにして市民對手工業者の間に於ける軋轢は日を逐ふて甚しく而して之れが重要なる源因は論者の推定する處を以てすれば課稅問題に存せしが如し、即ち勢力ある市民は市其者の費用を主として間接稅（當時之れを Ungeld と稱す）によりて支辨せんと主張するに對して手工者は之れを直接的財產稅又たは所得稅に仰がんことを希望せり、殊に前者に對して反抗せし者は課稅の目的物と見做さるゝ消費物を賣買する機業者、パン屋、靴工、鍛工等なりとす、斯くの如く都市其者の動搖は外來者が其勢力を扶植するに好個の機會にして、此機會に乘じて自己の地位を占めんとする小ハンス・フッカーは先づ一個の外來者（Gast）としてハイリヒ・クロイツ街に店借し之れが家業たる機業以外に絲類其他織物の原料を商ふこと約一二歲にして早くも彼れの機敏なる商才は市民の認むる處となり、遂に同市の市長の娘たるクララ・ウヰドルフと結婚し玆に千三百七十年を以て市民權を獲得するに至れり、其後彼れの事業は益、盛大となりし結果、千三百七十八年を以て新たに自己の居を構えしが、尙ほ之れが狹隘を感せし結果よりして、遂に千三百九十七年春を以て、當時同市にとりて最も目拔の場所たるマキシミリアン街に轉ずるに至れり、而して彼の業務が益、盛大を加ふると共に彼れ自からも亦た當時、アウグスブルグに於ける最も有力

なる機業組合の代表者として市政に參與し、茲に子孫發展の餘地を造るに至れり、尙ほ彼れが千四百九年に逝きし際には約三千フロリンの資產を遺せり、勿論、此資產を分析する時は彼れがクラベンより齎せしものもある可し、又、其母、其兄弟の遺產もあるべし、されども彼れをして最も大なる利益を得しめしものはウルム、ニュルンベルグ其他の商業地に於ける販路の擴張と自家製綿布の信用を博せし點なりとす、蓋、棉布の原料なる綿花に就きてハイドが吾人に敎ゆる處によれば(五)之れが昔時の名稱はbombaciumと名けられしが十三世紀の終末以來、亞剌比亞のKotnより轉化したるCottonumの語出現するに至り、而して之れが最良の產地として中世以來有名なりし地方はダマスカスの北方にあるハマー及ハレブの郊外にして之れに次ぐものはアダナ及シリアの中部地方、更に之れに次ぐものはアコン、サイプラス、ラオヂシア等にして殊に歐洲方面に輸入せられしものは埃及產にして、此狀態が十四、十五兩世紀迄繼續せし處を以て見る時はハンス・フッガー當時の棉花はアレキサンドリアよりベェニスに輸入せられしものなりしが如し。

（註五）　Wilhelm Heyd. Geschichte des Levantehandels im Mittelalter B II. s. 572-575.

二

ハンス・フッガー逝きし以後のフッガー家は一時、彼れの未亡人たるエリサベットによりて經營せられ（ハンス・フッガーの夫人クラヽは結婚後久しからずして逝きしを以て、彼れは十二年の鰥的生活を送りし後、更に第二の夫人を市の有力家より迎ふるに至れり、之れ即ちエリサベット夫人なり）斯くて彼女の怜悧なる性質は單に之れが資產を減少せしめざりしのみならず、寧ろ增加せしめて五千フロリン以上に達せしむるに至れり、其後、千四百三十六年を以て未亡人亦た此世を去るや、代つて直接經營の任務に當りしものはハンス・フッガーの二子たるアンドレアス及ヤコブの兄弟にして前者は專ら各種織物類の販賣に從事し、後者は之れに反して機業其者の監督及指導に服し斯くて兄弟力を合せて業務を勵みし結果「フッガー家の名聲益々熾んなるに至れり、然るにアンドレアスは其後、勤もすれば遠近に於ける自家の名聲を鼻にかけし結果、市民の有力者にして彼れと遠ざかるもの多く、加ふるにヤコブの如きも骨肉の親あるに不拘遂に彼れと遠ざかるに至れり、其結果はFugger von Rehの創刱者たる彼及彼れの子孫をして再び昔日の狀態に復

せしむること能はざるに至れり、即ちアンドレアスにはルカス、ヤコブ、マットヘウス及ハンスの男子ありて其父の死後、彼等は羊毛生糸、天鵞絨の取引に從事し、ベェニス、ニユルンベルグ、ライプチヒは勿論、和蘭、丁抹方面に對しても一時其手を擴げしが、餘りに信用を濫用せしと豪奢の生活を送りしが爲めに千四百九十四年ルカスが死せし際には其負債は遙かに其資産を凌駕するに至り、斯くて此方面の血統は或者は手工業者となり、又、或者はヤコブの家に身を寄せ、之れが爲めに Fugger von Reh の血統は千五百八十三年を以て斷絶するに至れり。

更にフッガーの本家たる Fugger von der Gilgen はアンドレアスの弟たるヤコブに始まり、彼れは其兄と異なりて忠實に家業を勵し、十一人の子女を有せし中、彼れと同名のヤコブによりてフッガー家は茲に益々家運の隆盛を見るに至れり。（未定）

十七世紀の英國に於ける利子論爭（其の四）

高橋誠一郎

（四）Sir Josiah Child の低利論と其の駁論

和蘭模倣論者（imitators of Holland）の利子低減論は更に Sir Josiah Child に由りて明確に表明せられたり。彼れが一千六百六十八年 J. C. の首字のみを掲げて出版せる Brief Observations concerning Trade, and Interest of Money. は實に「和蘭人が其の内外商業、財富及び船舶數に於ける異常なる增加は當に現代の羨望の標的にして、又遍く後世代の驚奇たる可きものなり。而も猶、彼れ等が斯くの如き進歩を贏ち得たる所以の道は極て明白なり、而して概ね大多數の他國民によりて模倣せられ得可き所なるも、殊に吾人英國民に取りて一層容易なるものなり」との章句を以て始れり（同書 p. 3）。斯くて彼れは和蘭の國富及び商權の增大に與つて力ありし方策十四ケ條を列擧したる後（pp 3-6）最後に、從來等閑視せられたるも、而も其の最有力のものと